

パリ：その歴史と景観

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学図書館 公開日: 2014-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清岡, 智比古 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/16756

『パリ：その歴史と景観』

清岡 智比古*

パリについては、世界中ですでに膨大な量のインクが消費されてきた。そしてそうした事情は、ここ日本においてもなんら変わるところはない。たとえば1970年代に席卷した都市論ブームにおいても、パリは単なる都市研究の対象であることを越え、都市論そのものが生成する母胎として機能してきたと言えるだろう。それは言うまでもなく、「ヨーロッパの首都」としてのパリが、分厚い記憶の層を自らの内に折りたたんでいるという事実と無縁ではない。

ローマ帝国属領時代、パリはまちがいなく辺境の地だった。地中海世界から見れば、札幌よりはるか北に位置するパリは、あまりに遠く離れていたのだ。そしてローマ帝国滅亡後の6世紀、ようやくパリはフランスの首都として指名される。しかしまでもなくその地位を剥奪され、ふたたび首都に返り咲くのは、10世紀末を待たねばならなかった。とはいえこの頃から、パリには次第に権力の中枢が集中し、現在へと続く繁栄の道を辿り始める。16世紀末にブルボン朝が成立。その絶対王政の中枢はパリにあり、かつまたその王朝を打倒した革命も、パリから地方へと広がっていった。その後何度かの揺り戻しを経ながら、革命後80年ほどでパリ・コミュンが実現。

*きよおか・ともひこ／明治大学 理工学部教授

さらに革命後 100 年目にはエッフェル塔が立ち上がる。フランスが、「民主主義」や「近代国家」を、そして激的な「帝国主義」をも体現してゆく中で、パリはいつもその中心にいた。もちろんそれは、政治・経済に限ったことではない。文学、音楽、絵画、そして 20 世紀の映画芸術などについても、パリ抜きで語ることはできない。

ところで、こうした大きな歴史のうねりの中にあるパリの研究に関わるわたしたちは、たえず一つの疑問を突きつけられている。——そもそも「パリ」とはなんだったのか？ パリ論は、つねにここから出発し、つねにここへ戻ってくる。

ただし、一つ間違いなく言えることもある。それは「パリ」が、時間の中にしか存在しないということだ。そして時間は、たとえば城壁の形をとって現われてくる。そう、パリは脱皮する。つまり、ローマ時代にシテ島に築かれた城壁から始まり、パリは 6 度、城壁を着替えてきた¹。ヨーロッパの多くの都市同様、パリもまた城壁都市であり、その脱皮の過程そのものが、パリの成長の記録だとさえ言えるだろう。

今回、特別資料として図書館に収蔵された『パリ：その歴史と景観』は、オリジナル銅版画、石版画、写真、挿絵、地図を多用して、パリの成り立ち、そして古代から 20 世紀末までのその発展を扱った重要文献の集成である。それらはわたしたちに、パリそのものの本質に向き合うための貴重な機会を与えてくれるはずだ。

たとえばコレクション 1 番の『パリ古地図集成』は、ローマ属領時代以来のパリの地図が集められているが、これは、従来それぞれに探す必要のあった古地図の集成であり、しかもこれまでの収集可能範囲を大きく超えたものである。パリの城壁も、その位置だけではなく、周囲の環境、たとえば貴族の住宅の位置、田園、並木、地域開発の状況等までも把握できる。リプロダクトであるが、当時の職人による精緻な復刻で、単なるリプリントの域を越えている。将来的には、これらの地図をもとに、パリの古地図のアーカイブを構築することも考えられるだろう。京都大学は、すでに「チュルゴーの地図」の電子版を公開しているが、本コレクションにおける複数

¹いわゆる「中世の城壁」を含めるなら、7 度ということになる。

の地図を通時的に閲覧することが可能になれば、多くの研究に資することは間違いないだろう。

また本コレクションは、パリそのものに対する地誌的研究はもとより、政治、経済、王朝史など、さまざまな文脈に開かれている。「パリ史」研究のどの分野に対しても、接続可能な資料となり得ているのだ。さらには、パリを作品のトポスとする文学作品、パリで花開いた美術運動などを研究する場合でも、各時代におけるパリの状況をさまざまなレベルで認識することは、着実な研究の基礎を支える不可欠の作業であり、つまり、地域研究、文学研究、美術研究、歴史社会学研究、パリ生活史研究、建築物研究など、さまざまな分野において各研究の土台となる資料となっている。

たとえばコレクション番号16の『アシェット年鑑』。アシェット社が1894年に創刊したこの年鑑は、各年にフランスで流行したファッション、文学、演劇、スポーツ、展示会などが記録され、19世紀末から両大戦、20世紀中葉までの、パリを中心とした社会情勢と流行を研究する上での貴重な記録が数多く記載されている。発行されなかった1944年を除き、1960年まで全67巻がすべて揃っているコレクションは、日本ではほとんど例を見ない。「ベルエポック」から「狂騒の時代」、そして「戦後」まで社会文化的な変遷を、具体的かつ詳細に読みとることができる。風俗研究のための宝庫と言えるだろう。

また、このコレクションの中核をなすのが19世紀の資料であるのは、現在のパリの原型が造られたのが1860年頃の「パリ大改革」であることを考えれば、当然であろう。このナポレオンⅢ&オスマン知事時代の前と後では、たしかにパリは多くの点で異なる相貌を見せている。もちろん、このパリ改造だけでなく、マルクスが称揚したパリ・コミューンの研究、あるいは2月革命などの研究にも、これらの資料は有用である。

パリをはじめとする都市の研究——その周辺に広がる郊外の研究も含めて——は、大げさに言うなら、人類の未来に関わっている。そこで都市観が問われるとき、それは取りも直さず、自然観が問われているのでもあるからだ。都市は本質的に、自然の破壊以外ではない。しかし一方で、都市はつねに文明の揺籃でもあった。かつて帝国主義的ヨーロッパが世界を荒らしまわったように、今はグローバリズム——更新された植民地主義？

—が世界を席卷している。こうした時代に求められているのは、新しい文明の形だということもできるだろう。パリを長いパースペクティヴで捉える本コレクションにより、さまざまな研究が蓄積されることを願う所以である。

では、本コレクションの各文献の簡単な紹介をしておこう。

1. 『パリ古地図集成』 2巻、1880年、パリ刊

Atlas des Anciens Plan de Paris

Reproduction en fac-simile des originaux les plus rares et les plus intéressants pour l'histoire de la topographie parisienne, avec une table analytique présentant la légende explicative de chaque plan et un appendice consacré aux documents annexes.

2 vols. Paris, Imprimerie Nationale, 1880. pp.72. With 64 plates. 51 x 66.5cm. half leather on marbled boards.

1960年頃に世紀後半に大規模なパリ改造を主導したオスマンが監修し、400部限定で出版された大型本。ガリア期から、革命後である1798年までの、パリの主要地図を復刻し、2巻本に製本したものである。

2. サン＝ヴィクトル、『図説：パリの歴史と風景』初版、2巻、1808-1909年、パリ刊

SAINT-VICTOR, J.-B. DE., *Tableau Historique et Pittoresque de Paris, depuis les Gaulois jusqu'à nos Jours*

First edition. Paris, H.Nicolle & Le Normant, 1808-1809. pp. 532; 768; 872, 34 index. With 145 plates, 95 vignettes ad 38 maps. 22 x 29cm. half leather on marbled boards.

著者であるジャック＝バンジャマン・ド・サン＝ヴィクトル(1772-1858)は、18世紀末から19世紀初頭にかけて活躍したフランスの著述家。ギリシア・ローマ期の古物研究、フランス革命後の大学制度についての著作、古典詩の注解などを残した。本書は、ローマ時代からフランス革命後までのパリの歴史を記述したもの。フランス全体では無く、パリに焦点を合わせ、多数の図版とともに解説を加えている。

3.『華麗なるパリ：その記念建造物、景観、歴史』、3巻、1861年、パリ刊
Paris dans sa Splendeur. Monuments, Vues, Scenes historiques, Descriptions et Histoire

3 vols. Paris, Henri Charpentier, 1861. pp. xii, 88, 120; 76, 44, 24, 22, 36, 26; 76, 80, 35. With 99 full page lithography plates.

35.5 x 49cm. cloth.

本書はパリの記念建造物、大通り、景観、歴史に関して、大判石版画図版99葉を添えて記述した壮大な解説書。石版画の質に優れている。

4. プージン『パリとその周辺』2巻（合本1冊）、1831年、ロンドン刊
PUGIN, A., *Paris and its environs. Displayed in a Series of Two Hundred Picturesque Views*

2 vols. in 1. London, Jennings and Chaplin, 1831. pp. 202. With 200 etched plates. 21.5 x 26.5cm. full leather.

パリとその周辺の主要な建造物を、200枚の質の高い銅版画による細微な図版を添えて説明した本。テキストは英語とフランス語の二ヶ国語表記。

5.『ダゲレオ・タイプ写真をもとに版刻されたパリの名所図譜』1850年、パリ刊

Collection de Vues de Paris, prises au Daguerreotype par Chamouin. Gravures en taille douce sur acier

Paris, Chamouin. (1850). n.p. With 25 etched plates. 23 x 30cm. full morocco.
ダゲレオ・タイプ写真から銅版画に起こした、パリの名所25景を製本した図版集。

6. ラザール『パリの通り名と記念建造物の歴史辞典』1844年、パリ刊
LAZARE, FELIX ET LOUIS., *Dictionnaire Administratif et Historique des Rues de Paris et de ses monuments*

Paris, Lazare, 1844. pp. viii, 702. 20 x 27.5cm. half leather on marbled boards.
パリの通り名と歴史的建造物の成り立ちについて説明した辞典。

7. リュリーヌ 『パリの通り パリの今昔』 2巻 (合本1巻)、1844年、パリ刊

LURINE, LOUIS., *Les Rues de Paris — Paris Ancien et Moderne*

2 vols in 1 volume. Paris, G. Kugelmann, 1844.

pp. 396; 411. With 300 illustrations. 18 x 26cm. half leather on marbled boards.

パリの通りの研究書。テキストは当時の著名文学者が担当。300枚の挿絵はドーミエやナントゥウなどの人気挿絵のものが使用されている。

8. デュロール 『パリの歴史、様態、市民生活、気質』 4巻、1845年、パリ刊

DULAURE, J.A., *Histoire, Physique, Civil et Moral de Paris*

7th edition. 4 vols. Paris, Bureau des Publications Illustrees, 1845.

pp. 564; 562; 546; 605. With numerous illustrations. 18 x 27cm. half cloth on marbled boards.

ローマ時代からナポレオンの時代までを扱う。図版多数。

9. ラヴァレ 『パリの歴史 ゴーロワの時代から1850年まで』 1852年、パリ刊

LAVALLEE, THEOPHILE., *Histoire de Paris, Depuis le Temps des Gaulois jusqu'en 1850.*

Paris, Hetzel, 1852. pp. 472. With numerous vignettes. 18 x 26cm. cloth.

紀元前53年から1850年まで、小間絵を多数入れてパリの歴史を述べた文献。

10. ジュヌイヤック 『世紀を越えたパリ リュテス成立から今日までのパリとパリ人の歴史』 5巻、1880-86年、パリ刊

GENOUILLAC, GOURDON DE., *Paris à travers les siècles. Histoire Nationale de Paris et des Parisiens depuis la Fondation de Lutèce jusqu'à Nos Jours.*

5 vols. Paris, F. Roy, 1880-1886.

pp. 480; 504; 456; 480; 504. With 306 monochrome and 112 hand colored plates. 21 x 29.5cm. half leather on marbled boards.

紀元前2世紀のリュテス時代から、1880年代までのパリとパリ人の歴史を、306枚の白黒図版と112枚の手彩色図版を用い考察した文献。主要な事件とそれぞれの流行ファッションの図版が豊富に使用され、風俗史的にも貴重な資料。

11. ラ・グルネリ『パリとそのモニュメントの歴史』1886年、トゥール刊
LA GOURNERIE, EUGENE DE., *Histoire de Paris et de ses Monuments*
7th edition. Tours, Alfred Meme, 1886. pp. 400. With many illustrations. 20 x 28.5cm. cloth.

1886年に刊行され、ベスト・セラーとなった読み物。ローマ帝国の支配下の時代より1870年代後半までのパリの歴史が31章にまとめられ、後半はパリの主要な歴史的建造物の成り立ちについて記述されている。

12. ドレ；ラブドリエール『新しいパリ：20区の歴史』1860年、パリ刊
DORE, GUSTAVE; LABEDOLLIERE, EMILE DE., *Le Nouveau Paris. Histoire de ses 20 Arrondissements*

First edition. Paris, Gustave Barba, (1860).

pp. xxxii, 440. With 66 plates & 21 maps. 20 x 28.5cm. half leather on marbled boards.

ギュスターヴ・ドレの挿絵66葉と、21枚の地図を添えて考察したパリ20区の歴史。巻末に地名辞典、通りの名称辞典が付いている。

13. 『美しき国フランス：パリ案内』20分冊、1897年、パリ刊
Le Beau Pays de France: Paris

20 vols. Paris, Bibliotheque Universalle, 1897. pp. 312. With a folded map and numerous illustrations. 24 x 32cm, loose as issued. pictorial wrappers housed in carton portfolio.

1900年パリ万国博開催に合わせて準備された、パリに関する出版物。セーヌ河畔、公園、大通り、動物園、モンマルトル、カルチェラタンなど、「古

き良き」パリを豊富な写真と挿絵を添えて紹介した美しい案内書。

14.ブルノン 『1900年のパリの地図と主要な建造物』1900年、パリ刊

BOURNON, FERNAND., *Paris Atlas*

Paris, Larousse, 1900. pp. xvi, 239. With 28 maps and 595 illustrations. 26 x 32.5cm. half leather on marbled boards.

パリ20区と郊外の地図、及び593点の建造物の写真を入れて、1900年におけるパリの姿を俯瞰する文献。

15.『光の都：パリ』1909年、パリ刊

Paris: La Ville Lumière, Anecdotes et Documents historiques, Ethnographiques, Littéraires, Artistiques, Commerciaux et Encyclopédiques

Paris, Direction Administration, 1909.

pp. 688. With numerous illustrations. 19.5 x 28cm. original morocco-grain cloth.

パリの史跡と有名店について紹介したガイドブック。20世紀初頭のパリの状況がわかる。

16.『アシェット年鑑』第1-67巻、1894-1960年

ALMANACH HACHETTE, Petite encyclopédie de la vie pratique

Tome 1-67. Paris, Hachette, 1894-1960. First 40 vols. red morocco, rest original wrappers.

Nice long set of the annual almanacs of the Hachette publishing house, with numerous ill. related to fashion, the arts, literature, theatre, sports, current events etc., and also numerous advertisements. Not published in 1944.

フランスの代表的な出版社であるアシェット社が、1894年に創刊した年鑑の、全巻揃い。各年にフランスで流行したファッション、文学、演劇、スポーツ、展示会などが記録され、19世紀末から両大戦、20世紀中葉までのパリを中心とした社会情勢と流行が紹介されている。1944年のパリ占領年は刊行されなかった。